

こたつくん

市川 宣子

あつくんが保育園にでかけたあとのことです。こたつ
の上には、あつくんがかいたパパの絵が、のつたままで
した。

そこへ、ねこのみーが、やつてきました。

「おい、ねこ。だいじな絵をふむなよ」

こたつが注意すると、みーは、ふん、と、はなをなら
しました。

「なんだい、えらそうに。こたつなんて、すわってばつ
かりのくせにさ」



こたつは、中が
ぼつと赤くなつたよ
うでしたが、だまつ
ていました。みーは
調子にのつて、
「だいたいその足、
なんのためにあるの
さ。ぼくとおなじ四
本もあるのに」
と、自分の足をあ
げてみました。す

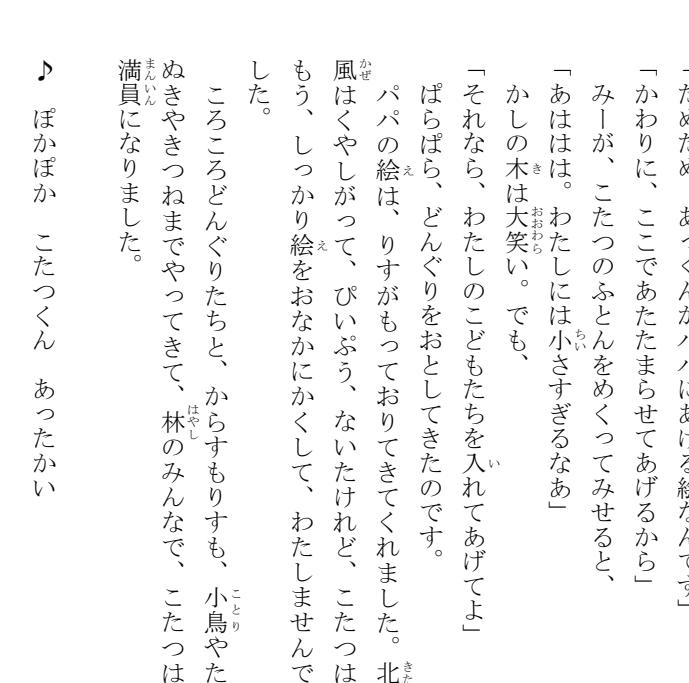
るというでしよう、こたつは、ひよひよ。じゅんばん
に足をあげ、どん、どん、と、ふみならしてみせたのです。
「わわわ。な、なんだよ。そんなこと、あつくんの前で
はしたことないだろ」
みーはびっくり、窓を開けてにげだしました。
「もちろん、あつくんにはないしょだぞ」
こたつは窓をこえて、のしのし、おかげできました。
「あ、しまつた」

「まるで北風です。びゅうう、あつという間にパパの絵は
もつていかれてしましました。

「あ、しまつた」

「まるで北風です。びゅうう、あつという間にパパの絵は
もつていかれてしましました。

♪ ぽかぽか こたつくん あつたかい



みんなで こたつくん さいこうさ

みーとこたつは、もううれしくて楽しくつて。

遊びすぎて、帰りは大あわてだつたんですつて。

その日の夜、こたつにどんぐりが「こいつていたのは、
あれはきっと……ね。

(おしまい)